

P2M資格試験にチャレンジしよう！

改訂3版P2M標準ガイドブック

(Program & Project Management for Enterprise Innovation)

グローバルで実践される日本発の知識体系

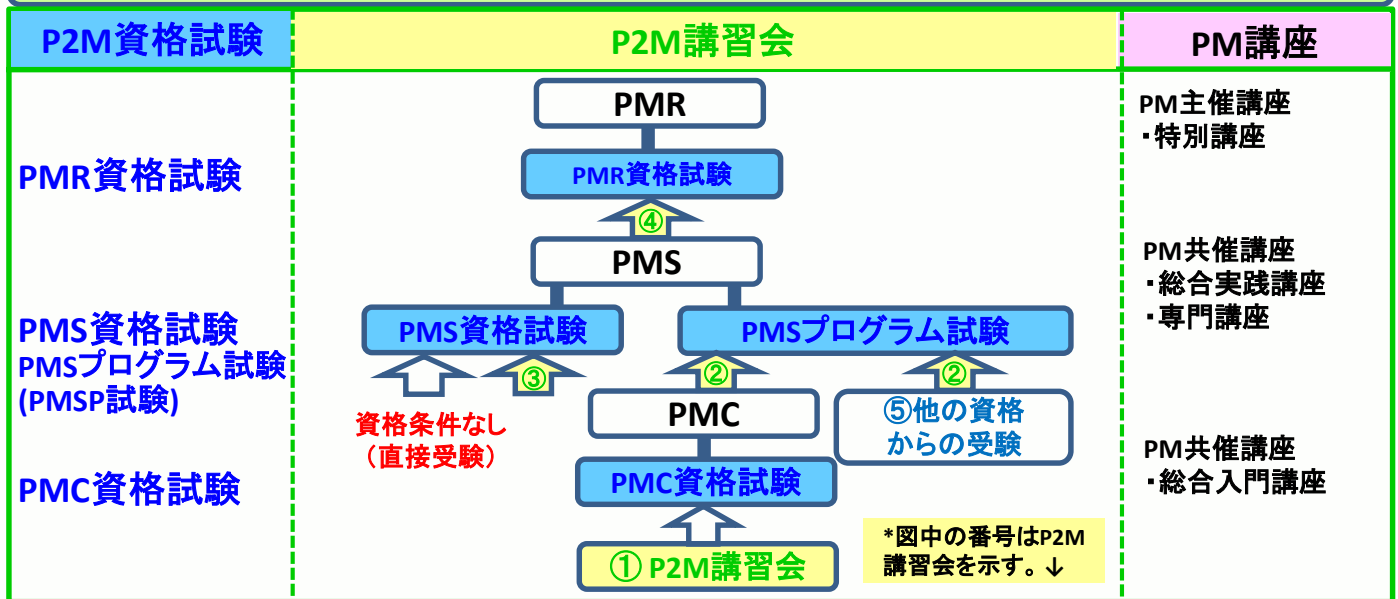
I P2M資格取得にはこのようなメリットがあります。

- ・組織で取得することで共通言語は組織力を高め、社外との情報交流を促すことが可能
 - ・実務経験のない人は事前に知識習得が可能、経験者は体系的に知識の整理が可能
 - ・PMCとPMSは体系的知識の修得を認定、PMRはP2M実践力の保有を認定
- * PMR:プログラムマネジャー・レジスタード、PMS:プロジェクトマネジメント・スペシャリスト
 † PMC: プロジェクトマネジメント・コーディネータ

II このような人におすすめです。

- ・プロジェクトマネジメントを学びたい人には、PMC資格試験
- ・上位概念であるプログラムマネジメントを学びたい人には、PMS資格試験
- ・実務での活用、異業種での交流でP2M実践力を高めたい人には、PMR資格試験

III 合格へのステップ、P2M講習会の利用



IV P2M標準ガイドブックとP2M資格試験出題範囲

P2M標準ガイドブック (P2M資格試験教科書)	PMR	PMS	PMSP	PMC
	実践力	知識		
第1部概要	○	○		○
第2部プログラムマネジメント	○	○	○	
第3部プロジェクトマネジメント	○	○		○
第4部知識基盤	○	○	○*	○*
第5部事業経営基盤	○	○	○	
第6部人材能力基盤	○	○		○

* 第4部について、PMSP(1,2,4章)、PMC(3,5章)

- ①・PMC講習会
 - ・e-ラーニング(PMC)
- ②・P2Mプログラム知識習得講座
 - ・e-ラーニング(PMSプログラム)
- ③・①+②
 - ・e-ラーニング(PMS)
- ④・PMR養成研修
 - ・P2Mプログラム実践研修
- ⑤他の資格からの受験
 - ・情報処理技術者(プロジェクトマネージャ)
 - ・技術士(総合技術監理部門)
 - ・ITC(ITコーディネータ)
 - ・CM(コンストラクション・マネジャー)
 - ・中小企業診断士
 - ・PMP®

* P2M資格試験は「改訂3版P2M」(平成26年4月に改訂/発行)に準拠して出題されます。

V P2M資格とキャリアパス

P2M資格体系	P2M資格認定要件	受験者のキャリアパス (知識と経験)	プロジェクトにおける キャリアパス(例)
	プログラム・プロジェクトマネジャーに必要なP2M実践力を保有	●3年以上の実務経験があり、PMS資格を取得した方	
	プログラムマネジメントを含むP2M全般知識を修得	●実務経験を積む前に知識を獲得したい方 ●実務経験があり、体系的に知識を整理したい方	
	P2Mにおけるプロジェクトマネジメントのコア知識を修得	●プロジェクトに携わることが決まった方 ●プロジェクトに参加している方	
	高専、大学、大学院でPMAJ認定教科書「プロジェクトの概念」を学習単位取得	●高専、大学、大学院でPMAJ認定教科書「プロジェクトの概念」を学習した方	

VI ミッションプロファイリングと価値創造

ミッションプロファイリングの概念図

プログラムによる価値創造と組織力強化

(改訂3版P2M標準ガイドブック)

- 変化する環境の中で、新規事業立ち上げ、組織変革、ビジネスモデル創出などを行うには、**プログラム**として捉え**全体最適を追求し、価値創造を実現**
- 組織の実践力であるコンピテンスを高め**組織力を向上しながら、プログラム統合のマネジメント**を実行して**新しい価値を創造**
- プログラムが産み出す価値 \geq プロジェクト群が産み出す価値の総和

VII 企業全体での取り組みにもお勧め

<ケース1> PMC資格者(建設会社Kさん)

米国での就労ビザ取得にPMC資格が役立ちました。

管理職ではないので申請しても就労ビザの取得がなかなか認めてもらえなかったのですが、PMC資格保有者ということで申請したらプロジェクトの専門家だということで直ちにビザが発行されました。

<ケース2> PMR資格者(建設会社事業本部長Aさん)

P2Mをベースに組織力をさらに高め、新事業に積極的に挑戦しています。

計画的に事業本部内で約50名がPMSを取得しました。人材育成を行い組織力向上を図り、新事業に積極的に取り組んでいます。

VIII 個人にとってもお勧め

<ケース3> PMR資格者(コンサルタントIさん)

プログラムの目線で考えるようになりました。

個別プロジェクトの完遂だけではなく、プログラムの目線に立って顧客のゴールやプロジェクトの目的を基に、プロジェクトをデザインすることを考えるようになりました。

